

# 2022年3月期第2四半期 決算補足資料

---

---

2021年11月10日



(東証二部 9857)

2022年3月期 第2四半期 連結決算概要	・・・ P.3
2022年3月期 連結業績見通し	・・・ P.15

# 2022年3月期第2四半期 連結決算概要

(単位:百万円)	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減額		前年 同四半期比		2022年3月期 業績見通し
売上高	16,232	15,771	△	460	△	2.8%	39,000
営業利益	457	368	△	89	△	19.5%	1,750
経常利益	480	391	△	89	△	18.7%	1,800
親会社株主に帰属する 四半期純利益	299	237	△	61	△	20.7%	1,170

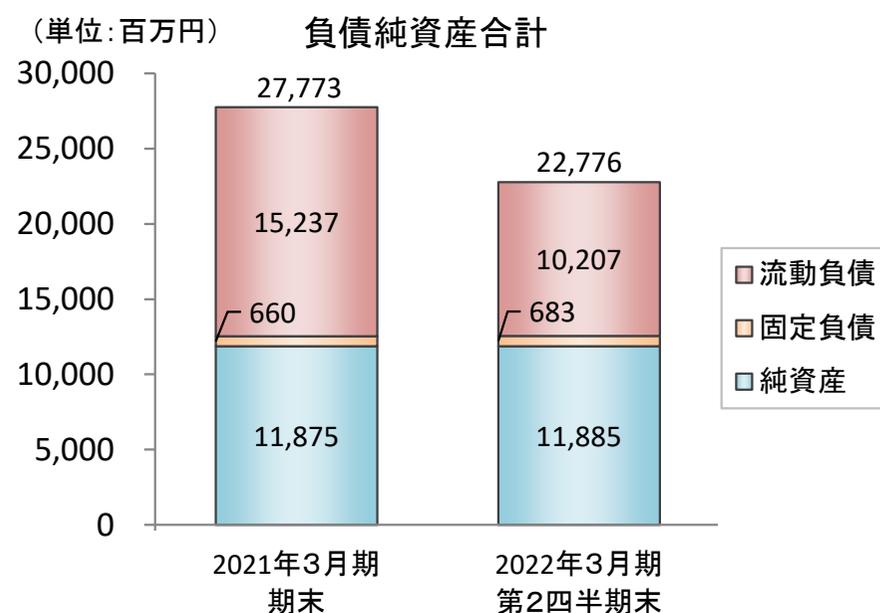
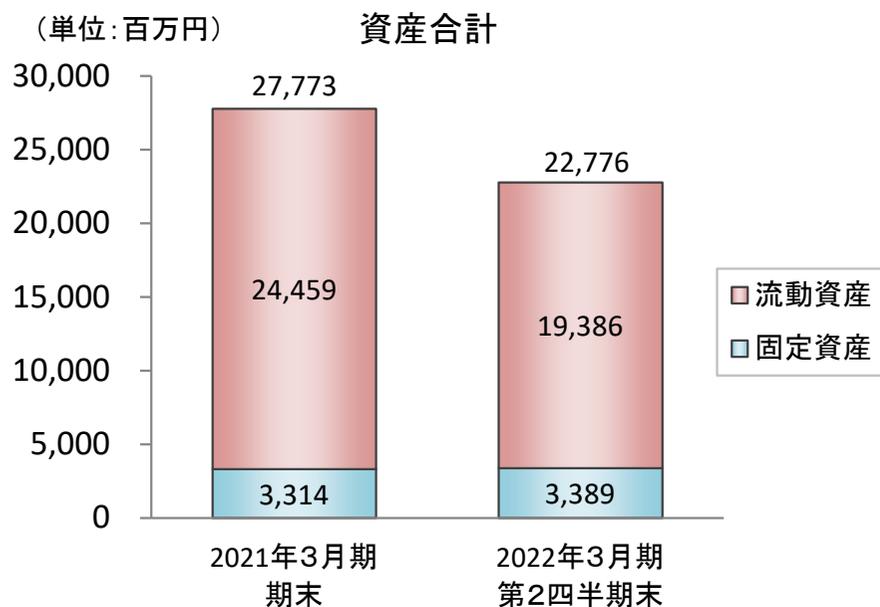
## 決算の概況

設備稼働率の上昇に伴い、建設機械業界や電気機器・精密機器業界向けの販売は堅調に推移しましたが、規模の大きな設備投資には未だ慎重な企業も多い他、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、引続き、営業活動において大都市圏を中心に対面営業が制限され、鉄鋼業界、プラント・エンジニアリング業界等向けの販売が減少しました。

(注) 本資料中の金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これにより、第2四半期連結累計期間の売上高は11百万円増加し、売上総利益、営業利益は15百万円、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ16百万円増加しております。

# バランスシート(連結)



2022年3月期第2四半期 ハイライト(カッコ内は前期比)

自己資本比率 : 52.2% (2021/03時点 42.8%)

## 資産

### 【増減の主な要因】

◆受取手形、売掛金及び契約資産:	10,771(△4,211)	} 売上債権の回収が進んだことにより減少しました
◆電子記録債権:	1,921(△177)	
◆現金及び預金:	5,513(△939)	配当の支払い、納税等に伴い減少しました

(単位:百万円)

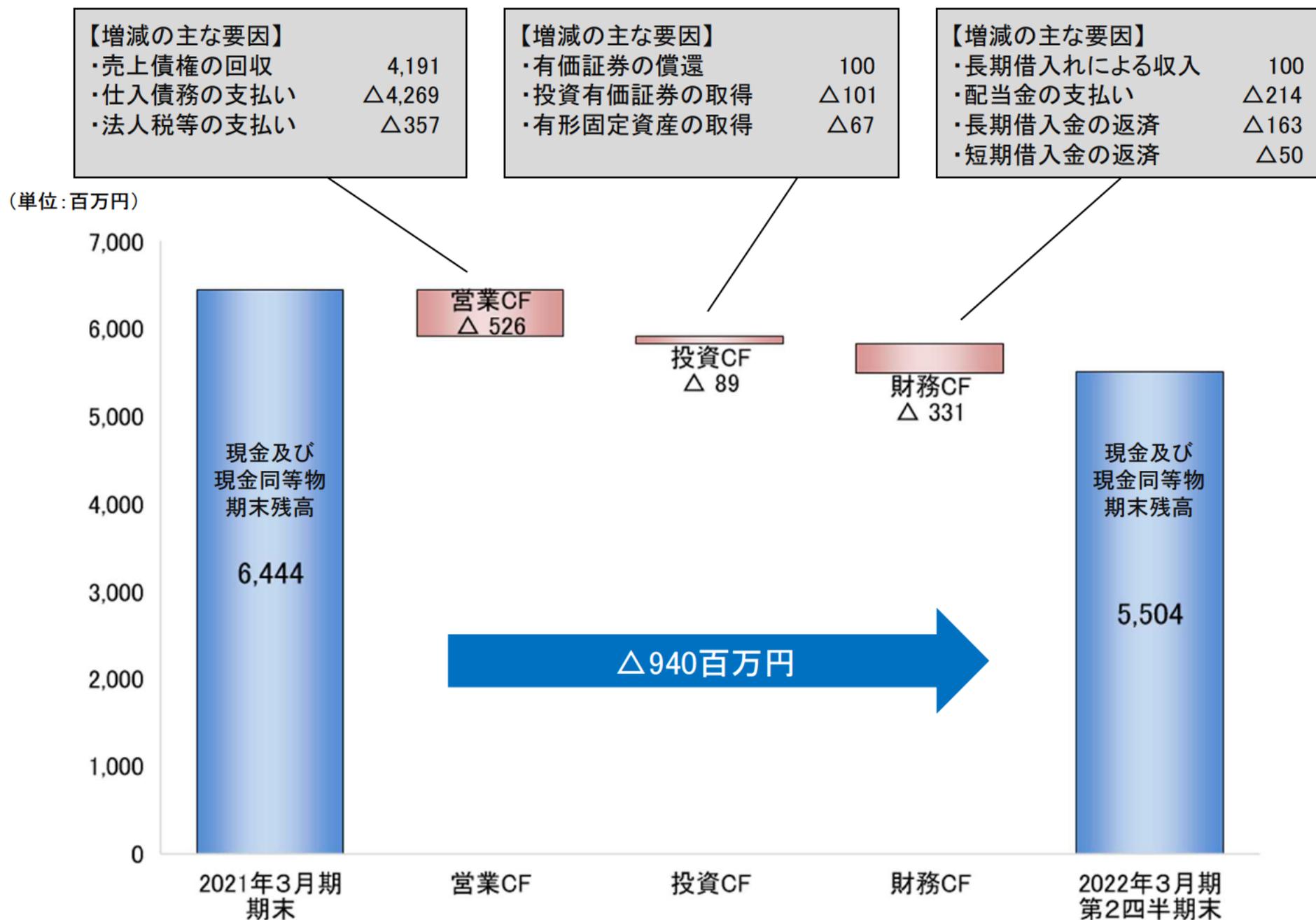
## 負債・純資産

### 【増減の主な要因】

◆支払手形及び買掛金:	4,592(△2,902)	} 仕入債務の支払いが進んだことにより減少しました
◆電子記録債務:	4,273(△1,362)	
◆未払法人税等:	94(△292)	納税に伴い減少しました
◆純資産:	11,885(+9)	配当の支払い215百万円等により減少し、四半期純利益237百万円等により増加しました

(単位:百万円)

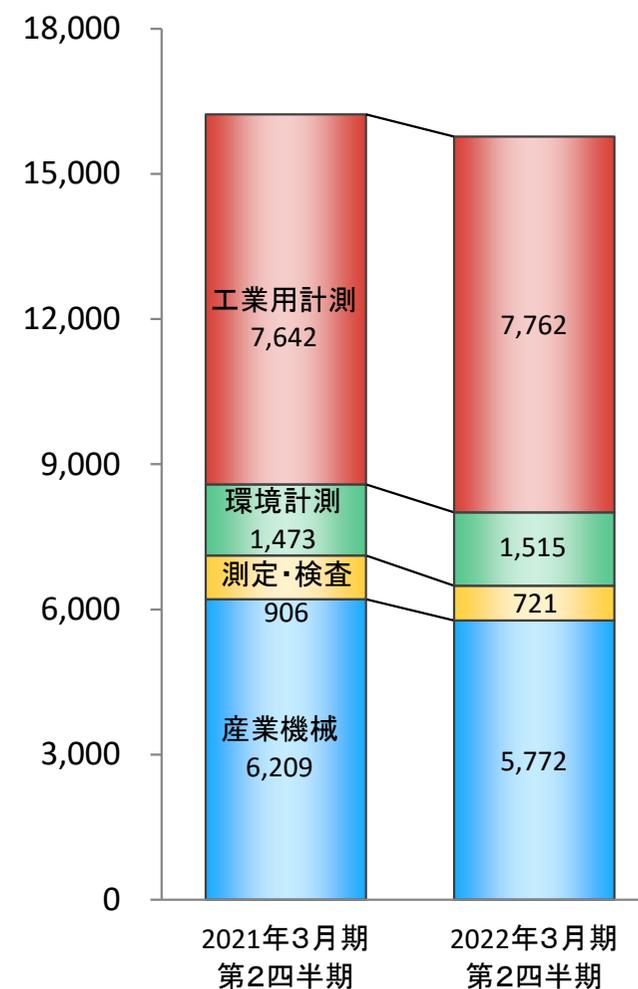
(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。また、収益認識会計基準等の適用により、利益剰余金の期首残高が△22百万円減少したことにより純資産が減少しております。



# 品目別売上高推移

(単位:百万円)	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	前年 同四半期比	構成比
工業用計測 制御機器	7,642	7,762	+ 1.6%	49.2%
環境計測・ 分析機器	1,473	1,515	+ 2.8%	9.6%
測定・ 検査機器	906	721	△ 20.4%	4.6%
産業機械	6,209	5,772	△ 7.0%	36.6%
合計	16,232	15,771	△ 2.8%	100.0%

(単位:百万円)



(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

## 工業用計測制御機器

産業技術の基本となる計測制御技術を  
安全性・信頼性で支える。

- ◆工業用センサー ◆制御機器
- ◆受信機器 ◆情報通信・変換機器

### 取扱い商品一例



IoT兆保全システム

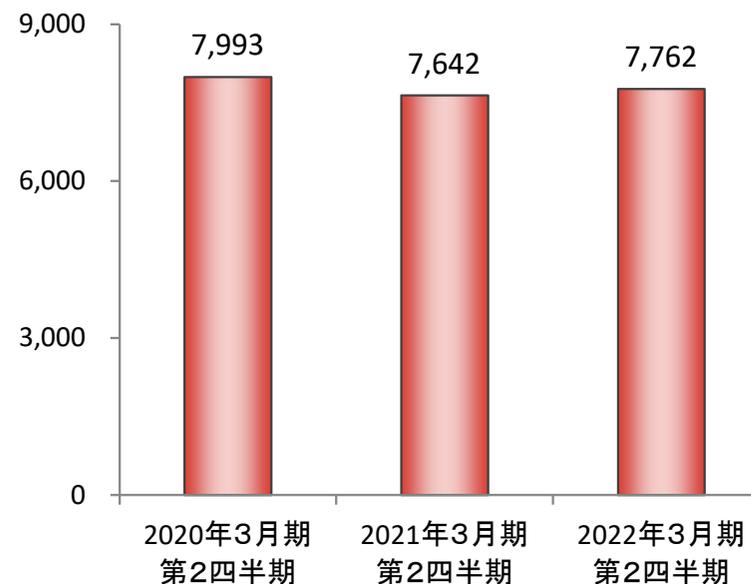


電波レベル計



グラフィックレコーダー

(単位:百万円)



### <当第2四半期売上高>

77億62百万円(前年同四半期比1.6%増)

安定的な生産を行うために必要不可欠な各種計測制御機器の更新提案、生産性向上や生産効率の改善を目的に自動化設備や各種ソリューションの提案、増加する自然災害への対策機器の提案等に取り組みました。その結果、プラント・エンジニアリング業界向けの販売が減少したものの、医療用途や半導体関連用途向け需要が好調な電気機器・精密機器業界や電力業界向けに、各種センサーや情報通信機器の販売が堅調に推移し、全体としても増加となりました。

## 環境計測・分析機器

『事業活動を通じ地球環境保全に貢献し社会的責任を果たす』を重点テーマに、ユーザーの環境改善対策に貢献。

- ◆ 水質・ガス・大気分析機器
- ◆ 気象観測機器
- ◆ 振動・騒音・臭気測定機器

### 取扱い商品一例



全窒素・全りん測定装置

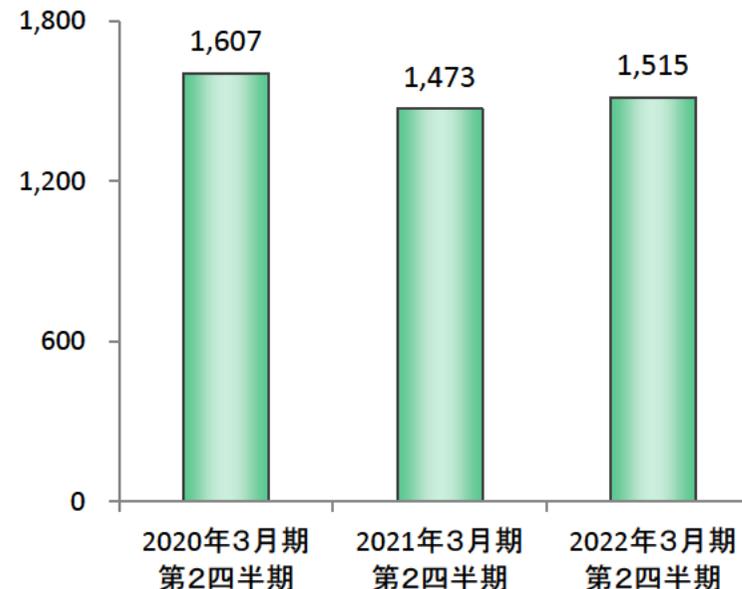


地震計



複合ガス検知器

(単位:百万円)



### <当第2四半期売上高>

15億15百万円(前年同四半期比2.8%増)

環境問題への社会的関心の高まりを背景に、水質、大気、振動、騒音等の環境計測機器・分析機器の販売、コロナ禍におけるリモートワークにも対応する各種環境測定データをリアルタイムに一元管理できる遠隔監視システムの提案、また安定的な設備稼働を目的としたアフターサービスの提案に取り組みました。その結果、石油化学業界や電力業界向けを中心に水質計やガス検知器等の大気分析計の販売が増加し、全体としても増加となりました。

## 測定・検査機器

研究開発や製品の検査を確かな品質でサポート。

- ◆形状検査・試験機器 ◆非破壊検査・試験機器
- ◆材料検査・試験機器 ◆電力監視機器・システム

### 取扱い商品一例



工業用内視鏡

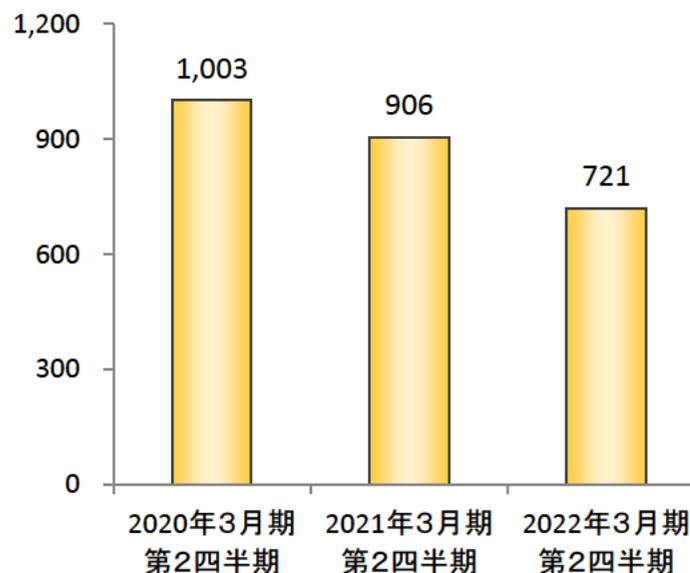


顕微鏡



三次元測定器

(単位:百万円)



### <当第2四半期売上高>

7億21百万円(前年同四半期比20.4%減)

脱炭素社会実現に向けた次世代技術の研究開発や、製品の品質や精度の向上を目的とした各種測定検査機器の提案、製造現場のデジタルトランスフォーメーション(DX)化や技能継承を推進するタブレット端末を使用した保守点検ソリューションの提案等に取り組ましました。その結果、先行きに対する不透明感から、比較的規模の大きな設備投資には未だ慎重な企業も多く、自動車関連業界や石油化学業界向けを中心に販売が減少し、全体としても減少しました。

## 産業機械

あらゆる生産設備・社会資本設備で活用される産業機械のソリューションを提供。

- ◆油・空圧機器 ◆ポンプ・バルブ機器
- ◆道路維持機械 ◆エネルギー関連設備
- ◆各種装置

### 取扱い商品一例



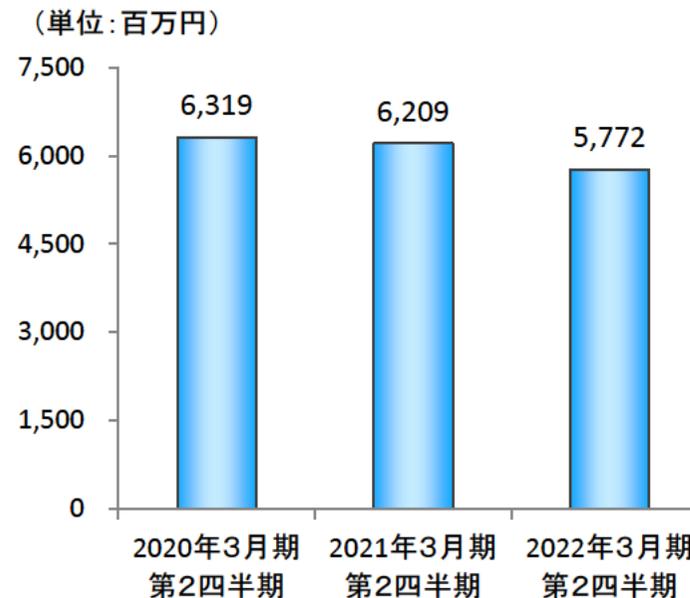
ポンプ



路面清掃車



濾過装置



### <当第2四半期売上高>

57億72百万円(前年同四半期比7.0%減)

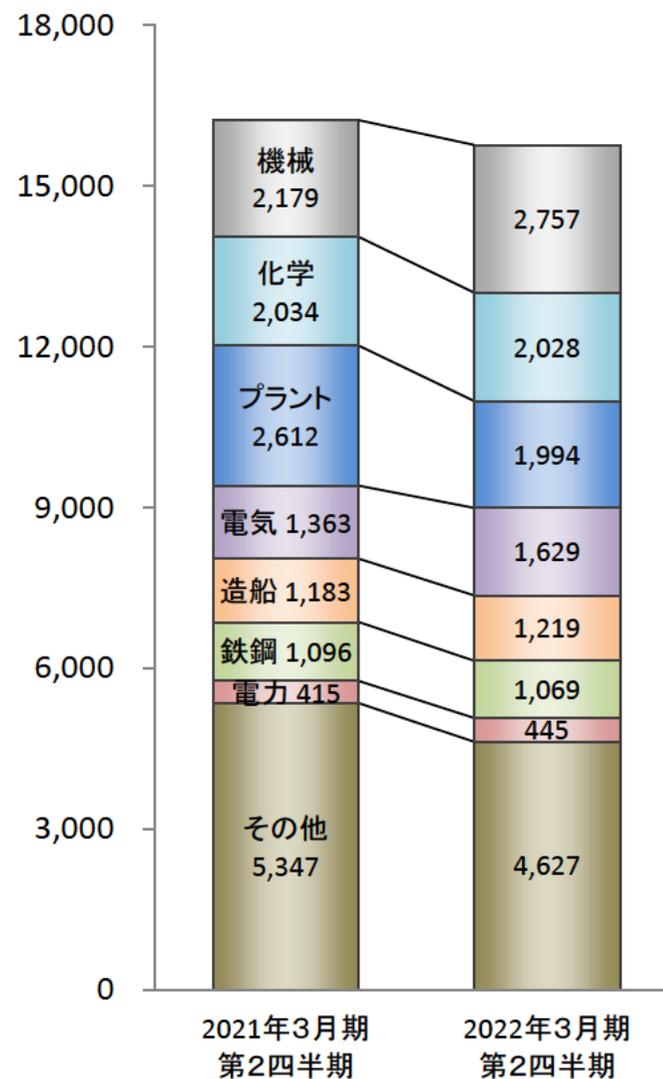
社会インフラ市場や民間企業における老朽化した設備に付帯する機器の更新、循環型社会の形成につながるリサイクルプラント、エネルギー効率に優れた各種機器の導入、生産現場の安心で安全につながる機器の提案に取り組みました。その結果、石油化学業界、建設機械業界、船用関連業界向けでバルブや油圧機器の販売が堅調に推移したものの、プラント・エンジニアリング業界向けで大口の産業機械の販売が一巡した他、社会インフラ市場向け特殊車両の販売も減少し、全体としても減少しました。

(単位:百万円)	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	前年 同四半期比	構成比
機械	2,179	2,757	+ 26.5%	17.5%
化学	2,034	2,028	△ 0.3%	12.9%
プラント	2,612	1,994	△ 23.6%	12.7%
電気	1,363	1,629	+ 19.5%	10.3%
造船	1,183	1,219	+ 3.0%	7.7%
鉄鋼・非鉄金属	1,096	1,069	△ 2.4%	6.8%
電力	415	445	+ 7.3%	2.8%
その他	5,347	4,627	△ 13.5%	29.3%
合計	16,232	15,771	△ 2.8%	100.0%

### 増減要因

- 設備稼働率の上昇に伴い、建設機械業界や電気機器・精密機器業界向けの販売が堅調に推移しました。
- 規模の大きな設備投資には未だ慎重な企業も多く、鉄鋼業界等向けの販売が減少した他、前年同期に定期修理需要があった石油化学業界、プラント・エンジニアリング業界向けの販売が一巡し、減少しました。

(単位:百万円)



(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

## RFIDタグを活用した業務の効率化

RFIDタグを用いた簡単棚卸、物品探索機能で時間を大幅削減  
漏れのない正確な管理が可能



## AI外観検査検証サービス

今まで人が目で検品していた業務をAIアシストにより半自動化が可能  
カメラ・レンズ選定、照明設定から設計・開発までのサポート

3つの検証ポイント



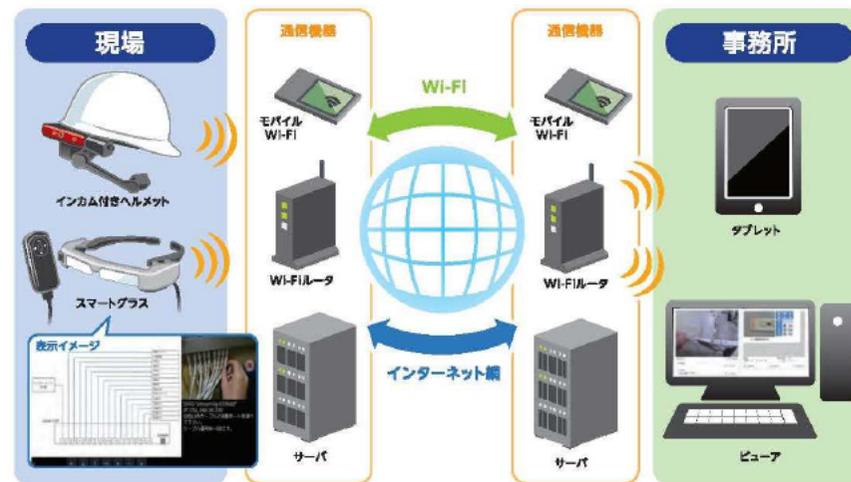
## 現場帳票のスマート化

「紙」から「データ」にすることで持ち運び便利、コスト削減、  
見たいときに見たい内容を現場で確認可能



## 遠隔作業支援システム

生産性向上のため、生産現場の設備稼働状況の遠隔監視が可能



※当社オリジナルカタログより抜粋

## 関連会社: エフシー開発株式会社



## 環境省「令和3年度CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」の補助事業者に採択

アサヒプリテック株式会社、エフシー開発株式会社、株式会社X-Scientia、三井住友信託銀行株式会社は、環境省地球環境局が公募した「令和3年度CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」において、「副産物の有効活用によるグリーン水素サプライチェーン構築に向けたシステム開発」を提案し、補助事業として採択されました。

### 2050年カーボンニュートラルの実現

出所：経済産業省2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略 2021.6

- 再生可能エネルギーの最大限導入、蓄電池活用
- 原子力の活用
- 水素、アンモニア、CCUS(※)/カーボンリサイクル等、新たな選択肢の追求

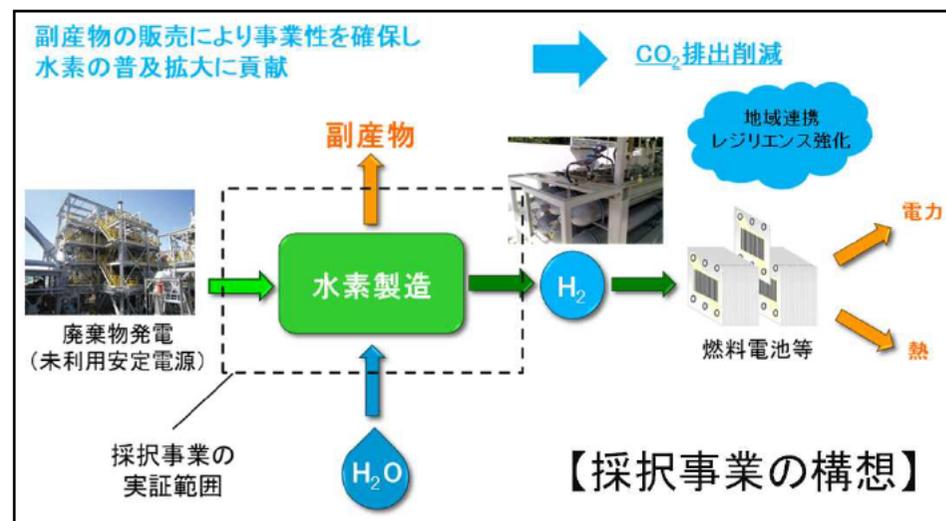
(※) CCUS: Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage 二酸化炭素回収・有効利用・貯留

### 【事業の構想】

- ・ アサヒプリテック株式会社が保有する廃棄物発電所における未利用電力を活用
- ・ エフシー開発株式会社がラボスケールで蓄積したノウハウを実機スケールで実証し、水素と副産物を併産する水素製造システムを開発

### 【事業終了後】

### グリーン水素サプライチェーン構築



# 2022年3月期 連結業績見通し

(単位:百万円)	2021年3月期	2022年3月期	増減額		前年同期比	
売上高	39,159	39,000	△	159	△	0.4%
営業利益	1,742	1,750	+	7	+	0.4%
経常利益	1,791	1,800	+	8	+	0.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,164	1,170	+	5	+	0.5%
1株当たり当期純利益	184.01	184.87	+	0.86	+	0.5%
見通し						

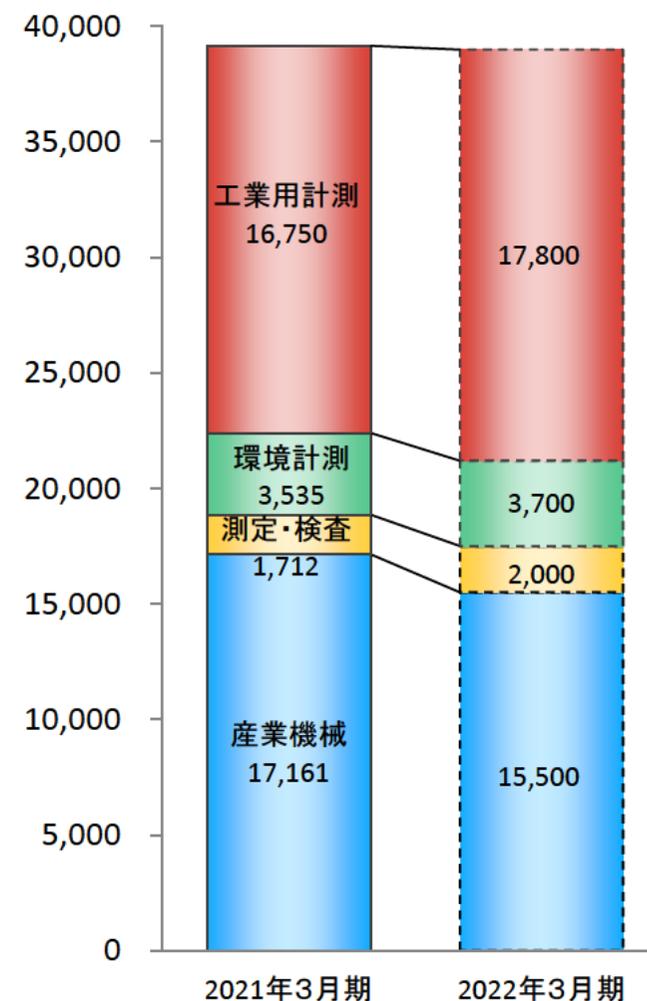
- 通期連結業績予想につきましては、現時点では2021年5月14日に発表いたしました業績予想通り変更はございません。

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっております。なお、対前期増減率については、2021年3月期に当該会計基準等を適用したと仮定して算定した増減率を記載しております。

# 品目別売上高見通し

(単位:百万円)

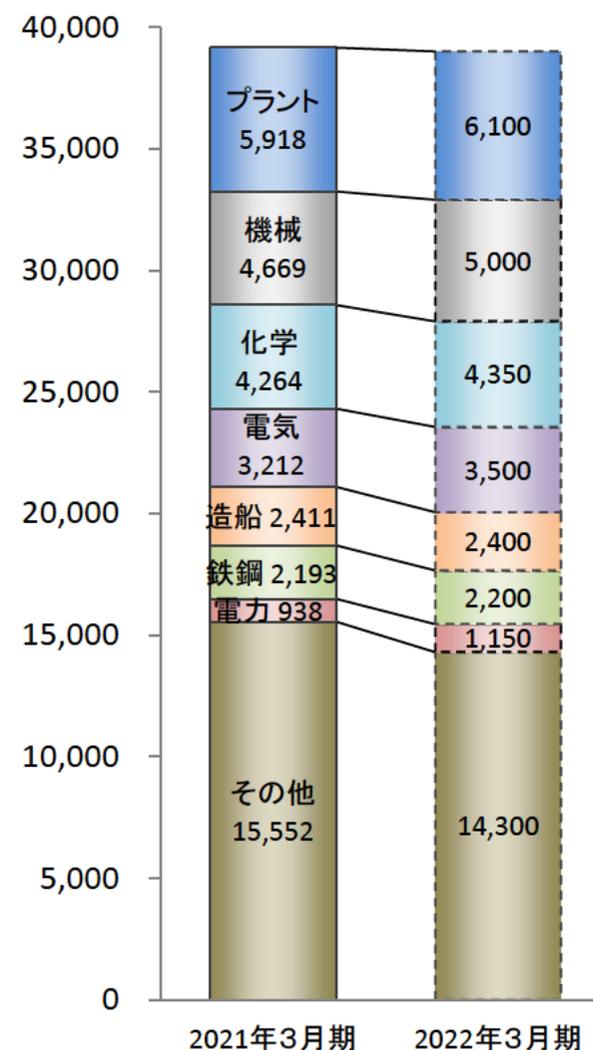
(単位:百万円)	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	構成比
工業用計測 制御機器	16,750	17,800	+ 6.3%	45.6%
環境計測・ 分析機器	3,535	3,700	+ 4.7%	9.5%
測定・ 検査機器	1,712	2,000	+ 16.8%	5.1%
産業機械	17,161	15,500	△ 9.7%	39.8%
合計	39,159	39,000	△ 0.4%	100.0%



(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっております。なお、対前期増減率については、2021年3月期に当該会計基準等を適用したと仮定して算定した増減率を記載しております。

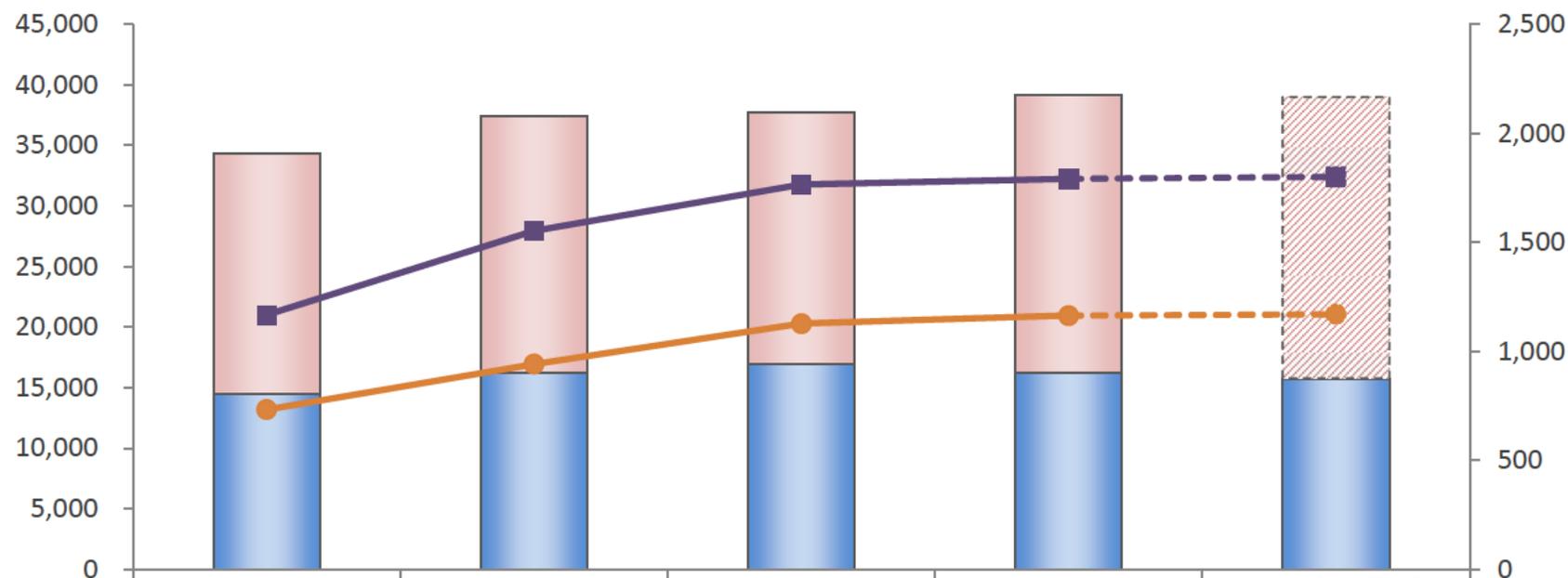
(単位:百万円)	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	構成比
プラント	5,918	6,100	+ 3.1%	15.6%
機械	4,669	5,000	+ 7.1%	12.8%
化学	4,264	4,350	+ 2.0%	11.2%
電気	3,212	3,500	+ 9.0%	9.0%
造船	2,411	2,400	△ 0.5%	6.2%
鉄鋼・非鉄金属	2,193	2,200	+ 0.3%	5.6%
電力	938	1,150	+ 22.6%	2.9%
その他	15,552	14,300	△ 8.1%	36.7%
合計	39,159	39,000	△ 0.4%	100.0%

(単位:百万円)



(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっております。なお、対前期増減率については、2021年3月期に当該会計基準等を適用したと仮定して算定した増減率を記載しております。

(単位:百万円)



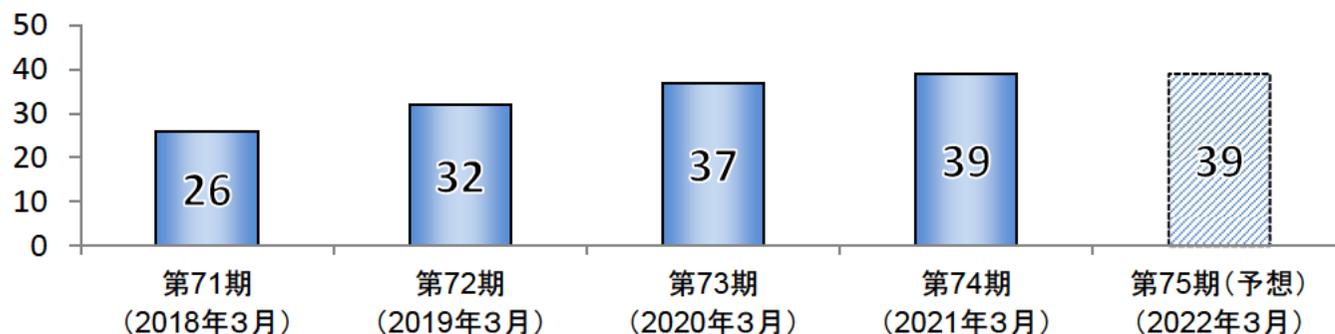
	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期 (見通し)
■ 3~4Q売上高(左軸)	19,888	21,143	20,758	22,926	23,228
■ 1~2Q売上高(左軸)	14,479	16,251	16,924	16,232	15,771
売上高	34,367	37,394	37,682	39,159	39,000
■ 経常利益(右軸)	1,167	1,552	1,765	1,791	1,800
● 親会社株主に帰属する 当期純利益(右軸)	733	941	1,127	1,164	1,170

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期の見通しは当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

## 普通配当

第71期 (2018年3月期)	第72期 (2019年3月期)	第73期 (2020年3月期)	第74期 (2021年3月期)	第75期(予想) (2022年3月期)
26円	32円	37円	39円	39円

(単位:円)

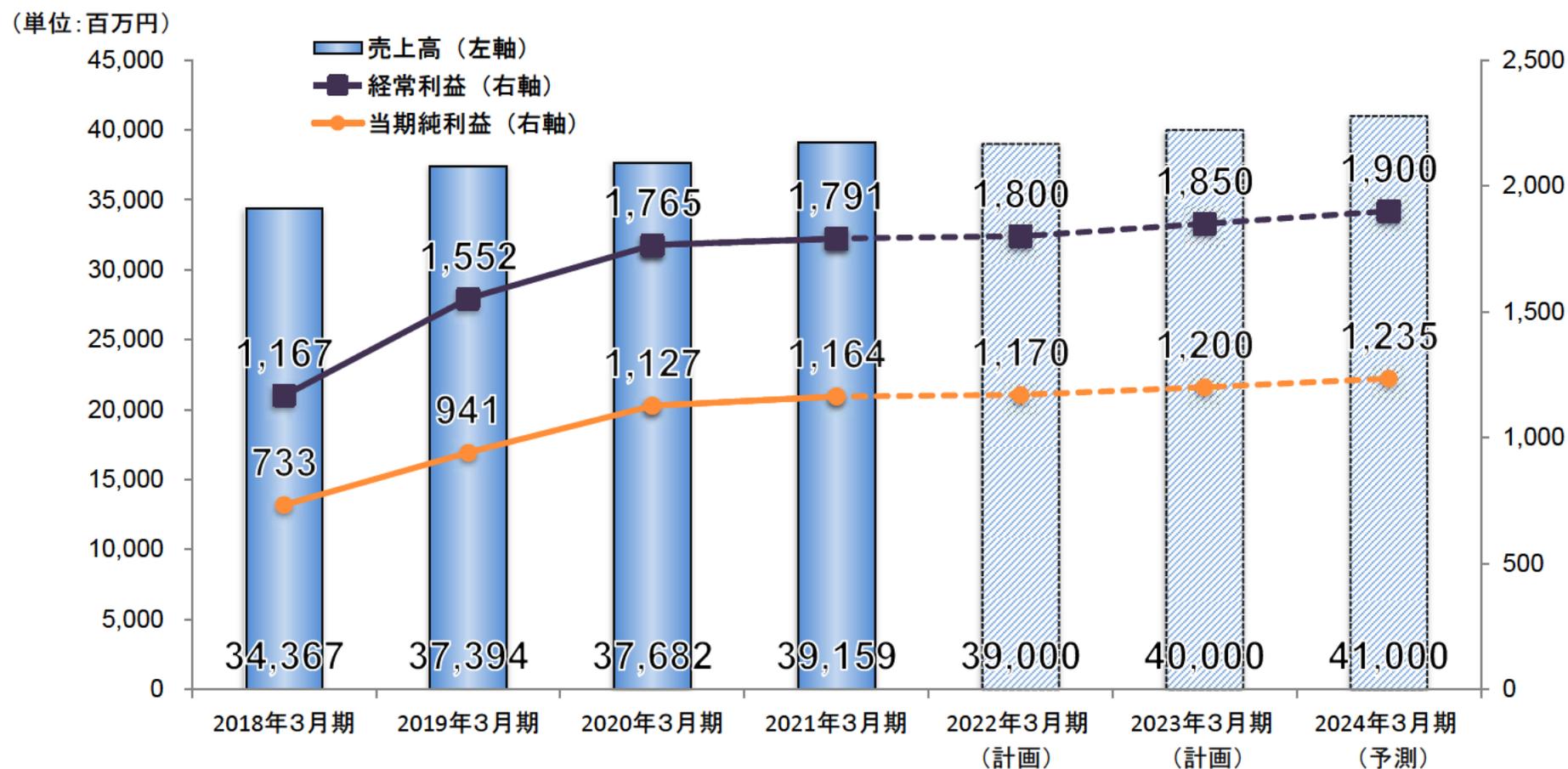


## 株主優待

1. 対象となる株主様 毎年3月末日現在の当社株主名簿に記載された株主様を対象といたします。
2. 優待の内容 以下の基準により保有株式数と保有年数に応じてクオ・カードを進呈いたします。毎年1回、当社定時株主総会終了後の6月下旬に発送いたします。

保有株式数	継続保有3年未満	(※) 継続保有3年以上
100株以上500株未満	500円分	1,000円分
500株以上	1,000円分	2,000円分

(※) 「継続保有3年以上」とは、当社株主名簿に同一株主番号で継続して3年以上記載されることとします。



	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2023年3月期 目標
ROE (株主資本利益率)	8.1%	9.8%	10.9%	10.3%	10.0%

安定的にROE10.0%を目指します

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期以降の見通しは当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

本資料に関するお問い合わせ先



経営企画部

TEL : 06-6539-4816

E-Mail : [ir-info@eiwa-net.co.jp](mailto:ir-info@eiwa-net.co.jp)

URL : <https://www.eiwa-net.co.jp>

(注)この決算説明資料に記載されている売上高及び利益等の計画金額は、いずれも当社グループ会社の事業に関連する業界の動向についての見通しを含む国内及び諸外国の経済状況、並びに各種通貨間の為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因についての現時点での入手可能な情報をもとにした見通しを前提としています。これらは、市況、競合状況、新規取扱商品の導入及びその成否等、多くの不確実な要因の影響を受けるため、実際の売上高及び利益等は、この資料に記載されている計画とは大きく異なる場合があります。本情報及び資料の利用は、利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。